

胡堂賞

心ってふしぎだな

西の杜小学校 1年

はたけ山 めぐる

「心って、どこにあるとおもう」

せんせいにきかれたとき、ぼくは

「しんぞうのとなり」

と、こたえました。なぜかという、いっぱいはしると、しんぞうがどきどきいたくなるからです。しんぞうが『トレーニングちゅうだ！がんばるぞ！』と、心のあいずをだしてきます。あたまにも、心はあるかもしれせん。けいさんやかん字のプリントをしていると、あたまがいたくなるときがあります。きつと、あたまにある心が『むずかしいよ』っていうからだとおもいます。

この本では、ほかに、体のいろいろなところに『心』があることをおしえてくれます。ほっぺ、むね、手、あし、口、めやこえにも心はあるそうです。はじめにそれをよんだときは、ちよつといみがわからなかったけれどおにいちゃんとけんかをしたときのことをおもいだしました。けんかをするとおにいちゃんがぼくにキックしちゃうのは、あしにも心があるからかもしれません。こえがこわくなったり、かなしくなつてめからなみだがでたりするので、口やめにも心があるとおもいます。また、手にも心があるとおもいます。ともだちと手をつなぐとたのしくてなかよしになるし、あくしゅをする、きもちがあつたかくなるからです。ぼくは『見えないけれど、心って、体のいろいろなところにあるんだな』と、ふしぎなきもちになりました。

この本には『うれしいことがあると体じゆうにちからがわいてくる』とかいてありました。ぼくのうれしいことは、ともだちとおにごっこをしたり、ママのお手つだいをしたりしているときです。えがおでおしゃべりになったり、うれしくてかおがあかくなったりします。心は見えないけれど、心によって、きもちも体もかわるんだということがわかりました。これから、たのしかったりこまったりしたときは、ときどきじぶんの『心』とおはなししてみようとおもいます。



## 審査員講評

胡堂賞感想文について

「目や声にもある」という言葉に不思議に思い、  
低学年らしい素直な気持ちで読み進めていまし  
た。日常体験から、自分の色々なところにも心  
があることを実感していました。これからも自分  
中の心と相談して、楽しい毎日を送っていい  
ほしいと思います。

図書名  
著者名

心ってなにがあるの？こころの  
ひみつ

教育長賞

けんかをしたらなかなおり

赤石小学校 2年 やな田 わお

わたしは、けんかのたねという本に出会いました。だい名を見て、わたしもいつもお兄ちゃんとけんかをしているから、どんなお話なのか気になりました。

けんかのたねってどんなたねだろうと考えてみました。きっと花はさかないだろうな。黒くてちや色いみがつくんじゃないかな。においはくさくて、にがいあじがしそう。そんなものが大きくそだったらとそうぞうするだけで、いやな気もちになって、かなしくなりました。

わたしは、まい日一回はお兄ちゃんとけんかをしています。けんかのりゅうは、お兄ちゃんがわたしのものをもってにつかったとか、お兄ちゃんがいきなりたたいてきたりするから、わたしもお兄ちゃんのわるいところをさがしてわる口を言ったりして、どんどんけんかになります。この本に出てくるきょうだいも、わたしと同じようなりゅうでけんかをしていました。

わたしは、読んでいるうちに、けんかのはじまりは、どうでもいいような小さいことなんだと気がつきました。お兄ちゃんがわたしのものをもってにつかったってわる口言うくらいのことじゃないし、いやなところをさがして言いあいをするから、どんどんけんかが大きくなっていくんだなと思いました。そうやって、けんかのたねがそだっていったら、わたしがそうぞうしたような、気もちわるいものが大きくなって、お兄ちゃんとずっとながかわるままになりそうです。

この本のきょうだいは、ちゃんとはんせいしてなかなおりしました。わたしは、じぶんからあやまることができないので、えらいなと思いました。わたしも、このきょうだいたい、じぶんからなかなおりできるようになつて、けんかのたねをそだてないようにしようと思いました。

図書名  
著者名

けんかのたね  
ラッセル・ホーバン

優秀賞

きつねとうさぎのすてきなかんけい

赤石小学校 2年 藤原 和奏

きつねとうさぎの、二人のしんらいかんけい。わたしは、「いいな。すてきな。」と思いました。

きつねは、絵をかくのが大すきです。でも、森のなかまの中には、きつねの絵をばかにする人がいたのでした。それでも、きつねは絵をかくことをやめません。しかも、てらん会に出す絵を、毎日いっしょうけんめいかいていました。そのりゆうは、友だちのうさぎが、きつねの絵をほめてくれるから、きつねは、ますますやる気を出して、がんばる力にかえることができたと思います。

うさぎは、てつぼうの前回りがなんどやってもできません。しかも、やまねこにけたけたとわられます。その時、はずかしくて家に帰ったうさぎを、きつねがしんぱいしておいかけあげるのでした。わたしは、この場めんが心にのこっています。しっぱいしてもはげましてくれる、お姉ちゃんとお母さんに行っているなあと思ったからです。うさぎは、きつねの絵が大すきで、がんばってかいているきつねのことをおうえんしているから、うさぎもきつと、きつねのすがたを見て、前回りのれんしゅうをがんばることができたのでしょう。

二人は、おたがいがいしんらいしあっていることを、かくにんできたんだとかんじました。わたしも、きつねとうさぎのような友だちをつくっていきたいと、つよく思いました。

わたしは、にがてなことはありません。ばかにされるのもいやです。でも、わたしのクラスには、いつも、「がんばって。」とか、「もうすこしでできるね。」などと、はげましことをかけてくれるお友だちがいます。そんなすてきなお友だちがいるんだから、しっぱいをおそれずに、いろんなことにちようせんしていこうと、この本を読んで、ゆう氣をもらえたような気がします。もちろん、わたしも、お友だちのことをおうえんしていきたいと思います。

図書名  
著者名

それで、いい！  
作 磯 みゆき  
絵 はた こうしろう

入 選

「まほうのじどうはんばいき」を読んで

古館小学校 2年 瀬川 裕大

「まほうのじどうはんばいき」というだい名を見て、どんな本かなと思いました。じどうはんばいきからまほうがとび出るのかな。それとも、まほうつかいが出てくるのかな。と、そうぞうがふくらみました。

しゅ人公のこうへいくんが、学校の帰り道に見つけたのは、ボタンとうけとり口があるだけで、しょうひんの見本もお金をいれるところもない、にじ色のじどうはんばいきでした。ボタンをおしてみると、今、じぶんがひつようなものが出てきます。かぶと虫やチョコレートなど、ほしかったものを見て、こうへいくんは「これがあれば何でもできる気がしてきたぞ」と、思いました。ぼくは、そんなこうへいくんが少し心ぱいになりました。どうしてかという、じどうはんばいきにたよってばかりいると、じぶんでは何もできない大人になってしまうからです。

もし、ぼくの前にじどうはんばいきがあらわれたら、お母さんのために、じどうでりょうりを作ってくれるロボットを出してもらいます。お母さんがこしがいたい時でも、ロボットがあるとらくちんです。ぼくは、そのロボットに日本では、なかなか食べられないりょうりを作ってほしいです。

お父さんのためには、小さいれいぼうがついているあつくならないふくを出してもらいます。お父さんは、しごとであつい時も車をうんてんしているから、プレゼントしたら前よりらくにしごとができるようになると思います。

こうへいくんのほしいものを出してくれたじどうはんばいきが、とつぜんなくなって、ぼくは安心しました。やっぱり、じぶんで考えてどりよくしていかないといけないと思うからです。これから、ぼくも、がんばって、どんなことじぶんでできる大人になりたいです。

図書名  
著者名

まほうのじどうはんばいき  
作 やまだともじ  
絵 いとうみき